



平成 27 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社ブレインパッド  
代表者名 代表取締役社長  
草野 隆史(戸籍名:高橋 隆史)  
(コード番号:3655 東証第一部)  
問合せ先 取締役 石川 耕  
(TEL. 03-6721-7701)

### 持分法による投資損失および特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 6 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 26 年 7 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）において、持分法による投資損失（営業外費用）および特別損失を計上いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 持分法による投資損失（営業外費用）の内容

当第 2 四半期連結累計期間において、事業の立ち上げ期にある当社の持分法適用関連会社株式会社 Qubital データサイエンスの業績に基づき、持分法による投資損失 35,924 千円を、営業外費用として計上いたしました。

#### 2. 特別損失の内容

当第 2 四半期連結累計期間において、当社連結子会社における事業の立ち上げの状況および今後の事業計画の精査、ならびに、当社が保有する投資有価証券の実質価額の評価を行いました結果、以下の特別損失を計上いたしました。

##### (1) 連結業績に係る特別損失の内容

①減損損失（株式会社ミディー関連）	69,946 千円
②投資有価証券評価損	20,100 千円
計	90,046 千円

##### ①減損損失（株式会社ミディー関連）

株式会社ミディーは、店舗内での消費者の購買行動を映像やセンサーからデータ化するビジネスに特化した企業であります。平成 25 年 8 月の同社の連結子会社化以降、同社は、3D センサーによる店頭購買行動の全自動分析サービスの立ち上げに向けて先行投資を続けてまいりましたが、このたび、現在の事業の状況をふまえて事業計画の見直しを行い、直近での投資費用の回収が困難であると判断し、子会社化の際に発生したのれんおよび当社が保有する固定資産に係る減損損失 69,946 千円を、特別損失として計上いたしました。

##### ②投資有価証券評価損

当社が保有する投資有価証券について実質価額が著しく下落したことにより、投資有価証券評価損 20,100 千円を、特別損失として計上いたしました。

上記①②の特別損失の計上により、当第 2 四半期連結累計期間における連結業績は、売上高 1,342,329 千円（前年同四半期比 9.1%増）、営業利益 111,127 千円（前年同四半期比 39.1%増）、経常利益 77,820 千円（前年同四半期比 34.7%増）、四半期純損失 72,879 千円（前年同四半期は四半期純利益 25,529 千円）となりました。

(2) 個別業績に係る特別損失の内容

①貸倒引当金繰入額（株式会社ミディー関連）	85,000 千円
②関係会社株式評価損（株式会社ミディー、BrainPad US Inc. 関連）	34,304 千円
③投資有価証券評価損	20,100 千円
計	139,404 千円

①貸倒引当金繰入額（株式会社ミディー関連）

株式会社ミディーの事業立ち上げのための資金として、当社が同社に融資した貸付金に対し、貸倒引当金繰入額 85,000 千円を、特別損失として計上いたしました。なお、この貸倒引当金繰入額は個別財務諸表上においては特別損失として計上いたしますが、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

②関係会社株式評価損（株式会社ミディー、BrainPad US Inc. 関連）

当社の連結子会社である株式会社ミディーおよび BrainPad US Inc. について、両社の業績をふまえ、当社が保有する株式の簿価との乖離があることから、関係会社株式評価損 34,304 千円を特別損失に計上いたしました。なお、この関係会社株式評価損は個別財務諸表上においては特別損失として計上いたしますが、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

③投資有価証券評価損

連結財務諸表における投資有価証券評価損と同内容となります。

上記①②③の特別損失の計上により、当第2四半期連結累計期間における個別業績は、売上高 1,320,942 千円（前年同四半期比 8.8%増）、営業利益 156,190 千円（前年同四半期比 81.3%増）、経常利益 161,103 千円（前年同四半期比 138.5%増）、四半期純損失 39,145 千円（前年同四半期は四半期純利益 37,039 千円）となりました。

3. 今後の見通し

当社は平成 27 年 6 月期の連結業績予想として、売上高、営業利益は前期（平成 26 年 6 月期）を上回ると見込んでいる旨を公表しておりますが、この予想に変更はありません。また、上記のとおり、当四半期においては、関係会社およびその他の投資先に係る損失処理の影響により四半期純利益が連結・個別ともに赤字となりましたが、第 3 四半期以降、株式会社ブレインパッド単体において引き続き堅調な成長を実現し、通期での当期純利益の黒字回復を目指してまいります。

以 上